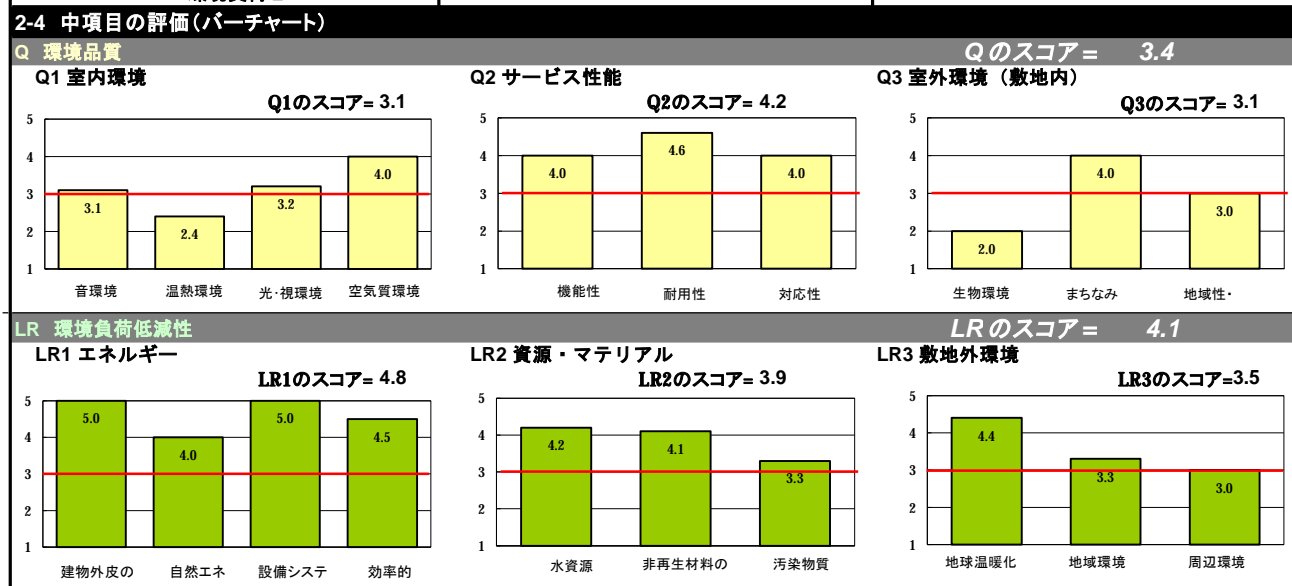
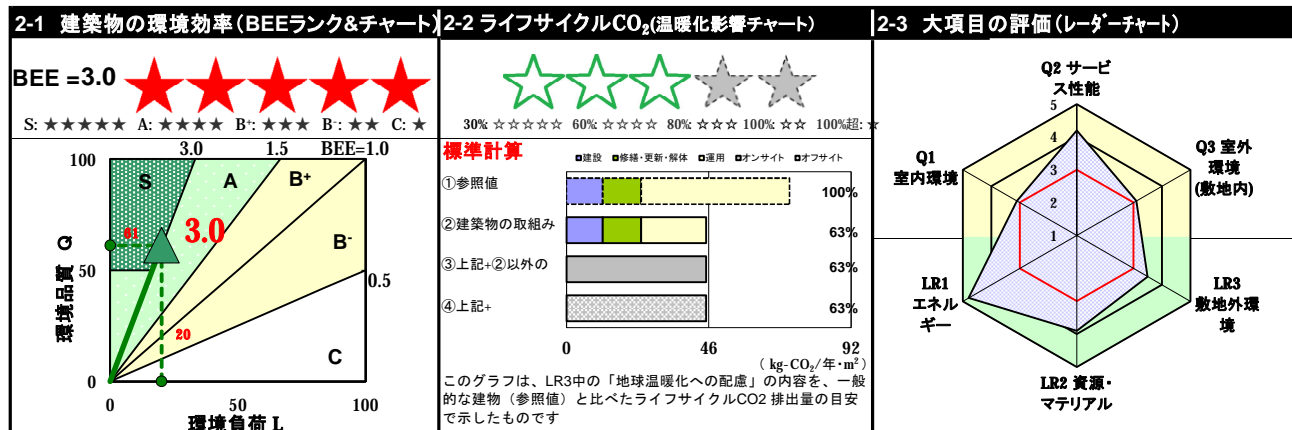


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪大学(吹田)感染症総合教育研究拠点整備事業	階数	地上10F
建設地	大阪府吹田市山田丘	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住専、防火地域 指定なし	平均居住人員	276 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2023年8月3日
敷地面積	10,426 m ²	作成者	西尾 吉貴
建築面積	2,354 m ²	確認日	2023年8月4日
延床面積	17,619 m ²	確認者	西尾 章治郎



3 設計上の配慮事項		
総合		
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Dr-42 自動照明制御ができる。 ビル全体の禁煙が確認されている。	階高: 3.9m。 床荷重: 4900N/m ²	特になし
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI=0.80。 BEI=0.45。	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 OAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	ライフサイクルCO ₂ 排出率63%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版					受付番号		R5-0050		
大阪府の重点評価(結果)					Osakafu-新築・既存 2018V1.0				
【建物概要】		建物名称		大阪大学(吹田)感染症総合教育研究拠点整備事業					
		建設地		大阪府吹田市山田丘					
		用途／区分		学校(大学等)					
【評価結果】		CASBEE 総合評価		★★★★★			S		
①		CO2削減		★★★★☆			4		
②		みどり・ヒート アイランド対策		★★★★☆			3		
③		建物の断熱性		★★★★★			5		
④		エネルギー削減		★★★★★			5		
⑤		自然エネルギー直接利用					○		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
				太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
		エネルギー消費量の報告							
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				4.4	4		
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0	5		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	○		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項				
特に配慮した事項									